

重点取組分野	令和 7 年度		総括	重点取組分野	令和 8 年度		総括	重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。ICTを効果的に活用し、本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが自分の学びを判断して選択して学習を進められるように、手立てや支援を工夫する。 重点研究テーマを「自分の思いや考えを表現できる子の育成」とし、国語の学習を中心に、相手を意識して言葉を選択しながらやり取りする経験を重ねて、自分の思いや考えを表現できる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてを明確にした授業づくりをすることやICTを活用することができたが、毎回の時間の確保が難しいなどの理由から、振り返りに課題が残った。そのため、重点研究に取り入れるなどして、学校全体でより「振り返り」を意識して設定できるようにしていく。 発達段階に応じて目標設定を行い、研究授業等を通して経験を積んで、自分の思いや考えが表現できるようになった児童がいる一方で、自分の考えが持たなかったり、伝える勇気が出なかったりする児童もいる。安心して学べる雰囲気作りや、教材の工夫に努める。 	B	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 単元や本時で目指す子どもの姿を明確にした上で日々の授業づくりを行う。 振り返りの時間を重視し、自らの学びを通して「できた」を実感できるように、手立てや支援を工夫する。 重点研究テーマを「自分の思いや考えを表現できる子の育成」とし、算数の学習を中心に、数学的な表現を用いて、自分の思いや考えを整理し、表現できる子を育成する。 			授業改善	c1		
なかよし班活動	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流を通して思いやりのある子を育成するために、6年生が主体となって「なかよし班遊び」を実施する。また集委員会が中心となって全校集会を実施する。 人間関係の基本を身に付けさせるために、委員会が中心となって学校全体であいさつ運動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会やなかよし班遊びを通して、思いやりをもって異学年交流をすることができた。 なかよし班を活用し、学校全体で挨拶運動を行うことができた。ただ、挨拶の習慣が身につけていないと感じることがあるため今後も継続的に指導をしていく。今年度の取り組みを通して、委員会を中心とするよりなかよし班で異学年交流を始める方が効果的だと感じたので次年度以降に生かしていく。 	B	なかよし班活動	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流を通して思いやりのある子を育成するために、高学年が中心となって「なかよし班遊び」を実施する。また集委員会が中心となって全校集会を実施する。 人間関係の基本を身に付けさせるために、学校全体であいさつ運動を行う。 			なかよし班活動	c2		
健康教育	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びをする児童を増やすために、なかよし班活動や委員会での活動で、みんなが体を動かすことの楽しさが実感できるような取組を、計画して実施する。 基本的な生活習慣の確立や健康的な体や心づくりの推進を図るために、学校保健委員会やすこやか委員の活動を通して自分自身の生活習慣について振り返る機会をもつ。 食事が心と体の健康に密接に関係していることを理解するために、すこやか委員会が中心となって栄養職員や養護教諭と連携し、食に関する取組を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びは委員会・なかよし班活動などの取組で行った。休み時間にボール遊びやおにごっこをして、校庭で過ごす児童の姿が見られた。また、運動委員会が中心となって「大縄集会」を行い、楽しんで体力向上を目指すことができた。 学校保健委員会では、「怪我予防」について各学級で話し合い、養護教諭の助言を受けてながら、学校全体で取り組むことができた。 すこやか委員会が中心となって、栄養職員の助言を受けながら、給食週間に取り組んだ。集会でクイズに答えたり、かるたや川柳を作って投票したりして、全校で楽しみながら、給食への感謝や食事の大切さを伝える活動を行うことができた。 	B	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びをする児童を増やすために、なかよし班活動や委員会での活動で、みんなが体を動かすことの楽しさが実感できるような取組を、計画して実施する。 基本的な生活習慣の確立や健康的な体や心づくりの推進を図るために、学校保健委員会やすこやか委員の活動を通して自分自身の生活習慣について振り返る機会をもつ。 食事が心と体の健康に密接に関係していることを理解するために、すこやか委員会が中心となって栄養職員や養護教諭と連携し、食に関する取組を実施する。 			健康教育	c3		
地域連携 学校運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画の中に地域の方と関わる活動を計画的に位置づける。また、取り組んだ活動については、記録を残し職員で共有し、次年度の学習活動に生かせるようにする。 授業や代表委員会、校内重点研、スマイルランド(学習発表会)の日に学校運営協議会を開催し、児童の活動を見ていただいた上で、学校運営についての意見をうかがう機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画の中に地域と関わる活動を、学年による「計画的に位置づける」ことができた。 授業や代表委員会、校内重点研、スマイルランド(学習発表会)の日に学校運営協議会を開催し、児童の活動の様子を見ていただいた上で、学校運営についての意見をうかがう機会を設けた。 サポーターズの方々と一緒に、子どもたちと地域がつながる機会をつくるために、チラシ配布をしたり、教員も参加するなど学校としての協力体制を整えた。 	B	地域連携 学校運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画の中に地域の方と関わる活動を計画的に位置づける。また、取り組んだ活動については、記録を残し職員で共有し、次年度の学習活動に生かせるようにする。 授業や代表委員会、校内重点研、スマイルランド、学校運営協議会を開催し、児童の活動を見ていただいた上で、学校運営についての意見をうかがう機会を設ける。 			地域連携 学校運営協議会	c4		
いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止研修を実施して、職員が共通認識を持つとともに、タブレットを用いた毎日の健康観察や年3回のYPアンケート、2回のいじめアンケート等により、些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。 月に1回以上の定期的ないじめ防止対策委員会に加え、必要に応じて臨時の委員会も実施し、積極的な認知および認知後の経過観察を丁寧に行うことで、再発防止に努める。 子ども会議や人権週間の取り組みの中で、子どもたちが話し合う機会を設定し、子ども自身が考える未然防止への取り組みを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止研修を実施し、職員の共通認識を持った。研修では、異学年交流のアンケート結果を用いたことで、より実践的な研修になるよう心がけた。 児童、教員からの悩みを把握し、いじめ防止に積極的な認知をした。認知後の経過観察を丁寧に行うことができた。 子どもたちが話し合う機会を設定することによって、学年を超えて、いじめの発生を防止することができた。実際に申し込まない児童も増加している。いじめの発生を防止することができるとともに、子ども自身が考える未然防止への取り組みを支援する。 	B	いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止研修を実施して、職員が共通認識を持つとともに、タブレットを用いた毎日の健康観察や年3回のYPアンケート、2回のいじめアンケート等により、些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。 月に1回以上の定期的ないじめ防止対策委員会に加え、必要に応じて臨時の委員会も実施し、積極的な認知および認知後の経過観察を丁寧に行うことで、再発防止に努める。 子ども会議や人権週間の取り組みの中で、子どもたちが話し合う機会を設定し、子ども自身が考える未然防止への取り組みを支援する。 			いじめへの対応	c5		
人材育成・ 組織運営(働き方)	<ul style="list-style-type: none"> 「教職の素養」「マネジメント」「専門性」の資質能力の向上を図るために、メンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって隔月の活動を継続して行う。 1年間を通して四季の森の優先課題を改善しているようにするために、プロジェクト委員会を隔月で実施する。 組織的な働き方改革につなげるために、ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の資質能力の向上を図るために、メンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって隔月の活動を継続して行う事ができた。今後もより高めあう取り組みを積極的にを行い、教職員全体の資質能力の向上を目指す。 プロジェクト委員会では、組織運営の改善を図るための話し合いを行ったが、具体的な取組ができていない部分もあり、今後の課題となった。 会議や日報のコミュニケーションツールとしてのICT活用が活発になり、様々な場面で効率化が図られるようになってきている。組織全体の働き方改革に繋がらう。今後も改善を行っていく。 	B	人材育成・ 組織運営(働き方)	<ul style="list-style-type: none"> 「教職の素養」「マネジメント」「専門性」の資質能力の向上を図るために、メンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって隔月の活動を継続して行う。 組織的な働き方改革につなげるために、ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図る。 			人材育成・ 組織運営(働き方)	c6		
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"> 学年ブロックで児童の実態把握を行い、必要な支援について検討・実施・評価を行う。必要に応じて特別支援委員会を実施し、職員会議で児童理解の時間を設けることで全職員の共通理解のもと組織的に対応する。 特別支援委員会でのICTの効果的な活用について検討し、共有する。 特別支援委員会では、個に応じた支援を行うために、支援の方向性を全教職員で共有し、安心して学校生活が送れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロック研の中で困り感のある児童について情報共有を行い、支援方法について検討・実施・評価を行った。また、必要に応じて特別支援委員会でも支援方法や学習の場について検討し、全職員に周知することで組織的な対応を行うことができた。 ICTの活用方法については今後、特別支援委員会のメンバーを中心に検討し、有効な活用方法について校内で共有できるようにしていきたい。 	B	個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"> 学年ブロックで児童の実態把握を行い、必要な支援について検討・実施・評価を行う。必要に応じて特別支援委員会を実施し、職員会議で児童理解の時間を設けることで全職員の共通理解のもと組織的に対応する。 特別支援委員会でのICTの効果的な活用について検討し、共有する。 特別支援委員会では、個に応じた支援を行うために、支援の方向性を全教職員で共有し、安心して学校生活が送れるようにする。 			個に応じた指導	c7		
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の反省をふまえ、より実態に即した訓練が実施できるように、年間の避難訓練計画を見直し実践する。 自分の命は自分で守るという気持ちをもてるようにするために、避難訓練や防災教育実施後、定期的に児童による訓練の振り返りをICTを用いて行う。 安心、安全な学校生活が送れるように、職員による毎月の安全点検等を活用して、校内の環境を見直し改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の反省をふまえた年間避難訓練計画を年度初めに整備するだけでなく、年度途中もその都度改善点を反映しながら訓練を行うことができた。 定期的にICTを用いた訓練の振り返りを全校で行い、児童が「自分の命は自分で守る」という気持ちをもてるよう把握することができた。 安全点検を毎月実施し、教室だけでなく、校内全体の改善を適宜行うことで、安心安全な校内環境づくりに努めた。 	B	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の反省をふまえ、より実態に即した訓練が実施できるように、年間の避難訓練計画を見直し実践する。 自分の命は自分で守るという気持ちをもてるようにするために、避難訓練や防災教育実施後、定期的に児童による訓練の振り返りをICTを用いて行う。 安心、安全な学校生活が送れるように、職員による毎月の安全点検等を活用して、校内の環境を見直し改善を行う。 			安全管理	c8		
				b9					c9		
				b10					c10		
ブロック内 評価後の 気付き	<p>ブロック合同の研修では、行動面で多彩な動きをする児童生徒への理解と対応についてお話をいただき、特別支援教育への理解を深めた。今年度は、ブロック共通のテーマ「児童生徒が『自らの力で課題解決できる』ための授業づくり」で本校にて研究授業を行った。市の学状の結果や校種を越えて授業改善の視点を共有することができた。また、これらの活動を通して地域の児童生徒が抱える共通課題を共有することもできた。今後は、それぞれの学校での特別支援教育の取組や授業改善の視点を活かし、9年間の支援の充実を図ってきたい。</p>		ブロック内 評価後の 気付き		ブロック内 評価後の 気付き			ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校独自の課題解決に向けた学校運営を進めていただきたい。課題が多岐に渡るため難しいと思うが、我々地域の人達を巻き込んでいただき、一緒に考えられる学校になってほしいと思っている。 いじめ対応も職員が共通認識を図り、いじめを無くす努力をしている。 それぞれの取り組みはおおむね来ていていると思う。そんな中地域では子どもの居場所について課題があるのではないかと感じている。地域と学校がもう少し情報交換し、地域の力を借りてもいいのではないかと、学習支援等の場所を共働で行えるのではないかと考える。 		学校関係者 評価		学校関係者 評価			学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り	<p>本年度は、めあての明確化やICT活用を進め、授業改善に取り組んだ。しかし学習の振り返りの時間が課題であり、来年度は校内研究に位置付け、全校でより効果的な振り返りの方法を確立する。地域には授業・行事を積極的に公開し、多様な意見を受け止めた。いじめ防止では研修と委員会により早期認知と経過観察を徹底した。小規模校としての特性を踏まえ、地域・保護者と協働し、安心して意欲的に学べる環境づくりをさらに推進することが今後の課題である。</p>		中期取組 目標 振り返り		中期取組 目標 振り返り			中期取組 目標 振り返り			